

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		臨床実習Ⅵ			6		
開講学期		科目責任者		副責任者		全体資料	
1 学期		砂田 芳秀		和田 秀穂		無	
授業到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 礼節をもって患者やその家族と接し、信頼関係を築くことができる。</li> <li>2. プライバシーや個人情報に配慮して診療を実践できる。</li> <li>3. 医療面接、身体診察、診療情報の分析と問題点抽出、鑑別診断の列挙、検査計画、治療方針の提案という基本的な流れに沿った診療を実践することができる。</li> <li>4. 適切な診療録記載ができる。</li> <li>5. TPOに応じた適切なプレゼンテーションができる。</li> <li>6. 多職種間でコミュニケーションを取りながら、チーム医療を実践できる。</li> <li>7. 経験した疾患をより深く理解し、最新の医学情報の収集とEBMが実践できる。</li> <li>8. 後輩学生を適切に指導することができる。</li> </ol>							
授業計画							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者・所属	授業内容	コアカリ項目
1～413	4/1～ 6/28	月～金	1～7	実習	各実習科	診療参加型臨床実習	G-1, G-2, G-3, G-4
評価方法							
<p>[実習点] 100%</p> <p>[評価方法] 出席・受講態度評価、ポートフォリオ、プレゼンテーション評価、OSCE、実習態度評価、観察記録、Mini-CEX</p> <p>[備考]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 6 学年の 4 月～6 月に、1 実習科 4 週間、計 3 実習科 12 週間にわたる診療参加型臨床実習 (Clinical Clerkship) を行う。</li> <li>2) 臨床実習Ⅵについては全出席が原則である。欠席した場合、補充実習を受けなければ Post-CC OSCE の受験資格を与えない。</li> <li>3) 3 実習科全て 60 点以上を合格とする (臨床実習Ⅵ共通評価表の評価項目に基づく)。</li> </ol>							
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックについて							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習が始まる前に「今日の目標」、実習が終わった後に、その日の「実習内容」「学べたこと」「反省点」を実習日誌に記載すること。「実習を通しての振り返り、学習目標の達成度など」「今後の目標、学習課題」については、各科での実習最終日まで、指導教員へ提出すること。</li> <li>2) 提出後は、実習全体を通してのコメントを指導教員が記載する。その後、教務課より、封筒に入れて各自に返却する。</li> </ol>							
教科書							
各実習科の指導教員の指示に従うこと。							
参考書							
各実習科の指導教員の指示に従うこと。							
準備学習 (予習・復習等)							
各実習科の指導教員の指示に従うこと。							
講義についての注意事項							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各実習科の指導教員の指示に従うこと。また、臨床実習の心得や実習期間を通して身につけるべき事項等については、臨床実習の手引きを参考にすること。</li> <li>2) 病気、事故等でやむを得ず欠席する場合は、担当教員と教務課に必ず自分で連絡をし、学生が担当教員に補充実習を依頼した後、事務室で欠席届を受け取る。補充実習終了後、欠席届に当該実習教室責任者に確認印をもらい、速やかに教務課へ提出すること。</li> </ol>							
昨年度からの変更点・改善項目							
臨床実習数を 4 週増やし、3 科での診療参加型臨床実習 (Clinical Clerkship) を行うこととした。また、評価表の評価基準を変更し、科独自の評価項目及び配点を明示した。							
学生の受け入れ方針や卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について							
臨床実習Ⅳ・Ⅴの習得後、医学知識・技能・態度教育の完成科目である他、「病む」ことの意味を理解し、病者に対して高い共感性を示す等、知性や道徳性、医の倫理を体得する。生涯学習の必要性や卒後研修への継続的な学修を意識する。医師としてのプロフェッショナルの重要性を学ぶ。							
ナンバリング							
DGCC601							